

令和6年度 評価計画及び自己評価

(計画 ・ 中間 ・ **最終**)

阿賀中学校区 校番 8 学校名 呉市立阿賀小学校

a 学校教育目標	自ら伸びる ともに伸びる	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉(学校の使命) ・地域との協働のもと 主体的・自律的に生きる子どもを育成する。 〈ビジョン〉(将来の学校像) ・阿賀学園地域教育連携協議会(アガデミア)の活動を生かして、「活気ある楽しい学校」「保護者・地域から信頼される学校」「やりがいのある学校」を目指す。
----------	-----------------	----------------------	---

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	阿賀中学校区は研究テーマを「主体的に学び、ともに伸びようとする児童生徒の育成」、副題を「授業や生活における居場所づくりを通して」と設定し、小中の教職員が一丸となり研究を進めてきている。その成果として、子ども達の実態や多様性を共有し、個への働きかけや支援の充実を図ることができるようになってきている。こういった個の支援の充実を図りながら教育実践を積み重ねた結果、阿賀中学校区の授業スタイルは確立し、SSR等を効果的に活用することができた。今年度は、昨年度までの研究の取組みを浸透させ、PDCAのサイクルを回しながら、方策や手立ての深化や拡充に努めていきたい。 めざす子ども像 自分の考えをもつ子ども・最後までやりきる子ども・認め合い励まし合う子ども
------------------------------	---

育成すべき資質・能力	知識・技能	思考力・判断力・表現力	自らへの自信	思いやり・感謝・貢献
------------	-------	-------------	--------	------------

評価計画(中期経営目標を設定してから 1 2 3 年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	学力の向上	基礎基本の学力の定着を図る。	・学力調査等の課題を踏まえ、指導の重点を定める。 ・「ドリルタイム」を年間計画に従って継続して取り組む。 ・漢字・計算の反復練習や課題克服のための学習を実施する。 ・個の課題に応じて、個別指導を行う。	・全国学力・学習状況調査において正答率30%未満、無回答率を「0」をめざす。 ・標準学力調査で全国平均より全校平均がプラス18点以上をめざす。(※各学年プラス3点以上) ・国語と算数の単元テストの平均点	95%	97%	102%	A	—	—	—
						88%	92%	B	—	—	—
						100%	—	—	0.6%	0.6%	D
			・授業改善を進める。 ①問いをつくる ②自分の考えをしっかりとつ ③みんなの考えを交流する ④発展的ふりかえりの時間を確保する。	・児童の授業満足度(よくわかる)	85%	85%	100%	A	83%	98%	B
**	自尊感情の高揚	規範意識を高める。	・生活目標を示し、「返事・あいさつ・くつそろえ」を点検させる。 ・縦割り掃除を無言で行う。	・「返事・あいさつ・くつそろえ」の自己評価	90%	87%	97%	B	89%	99%	B
		思いやりの心を育てる。	・子どもの心に寄り添った働きかけ、縦割り班活動やクラスチャレンジ、AJV等の活動の充実を図る。 ・「くん・さん」や「ほかほか言葉」を使う。	・「学校が楽しい」の自己評価 ・「自分にはよいところがある」の自己評価	85%	86%	101%	A	86%	101%	A
*	基本的生活習慣の定着と体力の向上	健康な生活を増進させる。	・学級担任、養護教諭、栄養教諭が連携した食に関する授業や食育朝食会を行う。 ・定期的に아가っ子生活カードで点検し、保護者啓発を促す。	・「早ね・早おき・朝ごはん」の達成率(毎日朝ごはんを食べる。)	97%	96%	99%	B	96%	99%	B
		体力の向上を図る。	・体育授業の充実、「阿賀小準備運動」・「아가っ子運動」を実施する。 ・体力テストに向けて体力アップキャンペーンを実施する。	・新体力テスト(50m走、握力、反復横とび)が県平均を上回る。	65%	28%	43%	D	58%	89%	B

業務改善	やりがいのある学校づくり	児童生徒と向き合う時間を確保する。	・会議時間、研修時間等を短縮する。	児童生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合	80%	88%	110%	A	92%	115%	A
		長時間勤務を削減する。	・平日18時30分退校、週1日17時退校を徹底する。	時間外勤務が月45時間を超えない教職員の人数	96%	52%	54%	D	81%	84%	B

【k:自己評価 評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

令和6年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

阿賀中学校区 校番8 学校名 呉市立阿賀小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	学力の向上	① 基本の学力の定着を図る。	○単元テストの平均点は国語科84.5%, 算数科82%だった。また, 標準学力調査では, 全校平均が全国平均と比較して, 国語科では2.5ポイント, 算数科では1.4ポイント下回り課題が見られた。 ○児童の「授業満足度」は, 95.5%で, 中間評価より上回った。 ○ドリルタイムや隙間時間に, キュピナのワークブックを活用した。個に合わせた取組を行い, 基礎学力の定着を図ることができた上に, 学級ごとにランキングにし, 視覚的に取組んでいる成果を児童に示したことで, 児童の学習意欲を高めることができた。	・書く機会が減っていることで, 自分の考えを整理して思考をまとめたり, 文章を解釈したりする力が低下している。授業においても, タブレットばかりでなく書く時間を確保するとともに, 日記等を活用して書く活動を増やしていく。 ・ドリルタイムや読書タイム等を使って, 漢字や計算の反復練習をし, 基礎学力の定着を図る。 ・授業の中で, 説明や話し合いをすることで思考が深まるような授業構成にするために, 学年や校内研修等で教材研究を行って授業に臨む。
**	自尊感情の高揚	① 規範意識を高める。 ② 思いやりの心を育てる。	○●「くつそろえ」は94%で目標値を達成した。「返事」は88%, 「あいさつ」は86%で目標値を達成しなかったが, 中間評価より向上した。 ○●「学校は楽しい」は86%で目標値を達成したが, 「自分には良いところがある」は82%であった。 オアシス隊やAAAキャンペーンなど児童主体の活動で, あいさつや廊下歩行を意識づけることができた。一方で児童と教員の自己評価は目標値を上回ることができなかった。 全体的に数値の向上は見られているので, 今行っていることも継続しながら, さらに向上できるよう, 具体的な取り組みを学校全体で行う必要がある。	・3学期には, 学年が一つ上がることを意識させた上で, スモールステップの目標を教員が提示し, 指導と評価を続けていく。その過程で, できていることを個別にも評価をし, 自己肯定感の向上を目指す。 ・教師自身が, 児童に求める姿を見せることで, 意識の継続を図り, 指導が徹底できるようにする。 ・QU調査を再度行った結果, 満足群にいたる児童は1%増加したが, 要支援群にいたる児童も0.7%増加した。児童が主体的にきまりを守る雰囲気醸成作りを学級で行う。 ・規範意識を高めるためにも, 学校全体で朝会や放送等を使って呼びかけ, 意識付けるとともに, 教師自身が, 違う口で同じことを言い続けていく。
*	基本的生活習慣の定着と体力の向上	健康な生活を増進させる。 体力の向上を図る。	○学校評価アンケートの結果(肯定的評価)では, 「朝ごはん」は96%で中間評価と同じ数値だったが, 10月実施のあがり生活カードでは, 毎日食べている児童は89.3%で1学期より3ポイント増加した。 ○食育朝会で, 生活リズムを整えることの大切さについて話したり, 発達段階に合わせたレシピを紹介することで児童が取り組みやすいように工夫することで意欲向上を図った。 ○「早寝」は72.0%, 「早起き」は78.7%であった。 ○●新体力テストの結果, 広島県平均を上回った割合が, 50m走は58%, 握力は58%, 反復横跳びは58%であった。すべての項目において一学期より上がっていたが, 目標値より7%下回った。 握力アップキャンペーンを実施することで, 全学年の興味関心を引き, 児童の個人練習につなげた結果だと考えられる。	・委員会活動の給食時間の放送や栄養教諭と連携した学級活動等を継続し, 食の指導の継続を行う。 ・基本的生活習慣の定着の向上を図るため, 学年通信や懇談会等で保護者に啓発すると共に, 気になる児童には個別で保護者連携を行う。また, 3学期にもあがり生活カードの取組を行う。 ・体力アッププログラムの徹底, くれ・チャレンジマッチスタジアム, 縄跳び月間, 持久走の取組等を通して, 引き続き体力の向上を図る。 ・体育朝会等を効果的に活用し, 視覚支援をすると共に, 児童の意識向上を目指していく。
業務改善	やりがいのある学校づくり	児童生徒と向き合う時間を確保する。 長時間勤務を削減する。	○児童と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合は, 91.7%, 月45時間を超えない教職員の人数の割合は, 81.3%であった。 ○時間外勤務月45時間を超過した教職員は, 7月93%, 8月100%, 9月80%, 10月は60%, 11月は73%であった。 ●行事があると, 業務が忙しくなり45時間を超過する教員が増えるので, 計画的な取組が必要となる。 ○生徒指導の対応に時間がかかることがあった。 ○学年合同での活動時間を設定することで, クラスの垣根を越えて児童と関わることができ, 児童と向き合う時間を確保することができた。	・3学期は, さらに学年で連携し, 計画的に取組むことで, 時間外勤務の時間を減らしていくようにする。 ・教育推進加配教員や指導補助員等と連携を図り未然に防ぐようにすることで, 生徒指導に充てる時間の削減を図る。 ・業務の優先順位を意識し, 計画を適切に進めたことが時間外勤務の削減につながったので, 今後も学年で計画的に進めていく。 ・学年で合同でできることは, 学年団で計画的に行うことで, 長時間勤務の削減に取組んだ。

令和6年度 学校関係者評価及び改善策

(中間 最終)

阿賀中学校区 校番 8 学校名 呉市立阿賀小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	B	学力の向上に関する指標で評価がDとなったのは、児童の実態に対して目標値が適切に設定されていなかったと思われる。目標値の設定は難しいが、学校は大変努力されているので、今後に期待したい。
目標達成のための方策の適切さ	A	スモールステップできめ細かく目標を設定し、指導と評価を継続し、具体的方策が取られている。 朝会や特別活動(委員会や学級活動等)を活用しながら、目標達成のために具体的に取組むことができている。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	向上した項目・課題があった項目も具体的に分析がされている。
今後の改善策(案)の適切さ	A	分析結果に基づき改善策が具体的に提示されている。
その他		各主任が目標達成に向けて頑張っている。特に、体育主任が目標の中で握力を鍛えることを重点的に掲げていたが、実現されている。 学校は、たくさんすべきことがある中でめりはりをつけ、選択をし集中しながら熱心に取組んでいる。 学習発表会で、児童と学年団の一体感を感じた。若い先生方が学年団の支えで自信をもって活動していた。学年団としての取組が児童と向き合う時間の確保につながり、教職員にとってやりがいのある学校となっている。 ICTの活用による効果と、書く機会が減っている課題を受け、学校の使命である学力の向上のために改善策の具現化に期待している。 マスクをとって互いに顔を見て話をしたり、机の配置を二人組にしたりすることで、自尊感情の向上やいじめ防止にももつながると考える。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	学校関係者評価委員さんの評価を受けて、「学力の向上」「自尊感情の高揚」「基本的生活習慣の定着と体力の向上」についてさらに目標が達成できるように組織的に取組んでいく。 学習環境や学習形態の話もあった。児童にとって効果的なものを選択しながら指導の工夫をさらに図っていく。 また、研修等を定期的に仕組むことで、教員一人一人が目標をしっかりと意識し、学年に合わせてより具体化した改善策に取り組むことで、目標達成のために取組んでいく。 地域・社会・家庭が一体となって取組めるように、これからも連携を図っていく。
--------------------	--